

GREEN Rader

全農長野県本部情報 グリーンレーダー

2025

11

Vol.558



©松本山雅FC



中期事業計画(令和7～9年度)実行具体策の進捗状況について

A-R eports

- ・YouTube番組「紀香とゆる飲み」で「和牛焼肉 信州そだち」を紹介 5
- ・「第16回全日本ホルスタイン共進会長野県予選会」開催 6
- ・JA資材店舗の売場コンテスト全国大会でJAファームみゆき店が全国の頂点に!
さらに各賞受賞店舗数は長野県が最多! 7
- ・松本山雅FCホームゲームで「JA全農長野デー」開催 8
- ・JAながの産リンゴ「秋映」トップセールスを開催 8
- ・近畿大学で花イベント 9
- ・日本火山学会交流会にて大人の食育展示を実施 9

- ・今月のおすすめレシピ 10
- ・11月のラジオ番組表 10
- ・編集後記 10



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

中期事業計画（令和7～9年度） 実行具体策の進捗状況について

全農長野県本部は、中期事業計画の実践によりJA支援に取り組むとともに、JAおよび子会社とともに農業所得の増大と地域の活性化に取り組んでいます。

I. 【中期事業計画における基本目標】 令和7年9月末時点での総括

その1 持続的な農業生産基盤づくりによる農業生産量の維持拡大

- (1) 担い手推進センターを中心に、マーケットと地域や担い手農業者双方のニーズに対応した栽培技術提案に取り組むとともに、生産安定に向けた現地指導や栽培講習会、モデル圃場での実証試験を通じて営農指導支援体制の強化に努めています。
- (2) 気候変動や災害の発生に備える施設強化対策や排水対策の機械導入など新技術を推進しました。また、労働の効率化や生産性向上等の課題解決に向けたスマート農業・農業DX化をすすめました。

その2 販売力強化とコスト低減による農家組合員の手取り最大化

- (1) 生産コスト上昇を踏まえた再生産可能な取引価格の実現、県産農畜産物の消費拡大に向け取引先や消費者への理解醸成に取り組む一方、新品種導入、集荷率向上、予約取引強化、業務用への推進、輸出拡大等を通じ販売力強化に取り組んでいます。
- (2) 物流効率化に対応した包材の実用化や軽量肥料、大型規格農薬等の普及推進による生産資材コスト抑制、農機価格低減のため農機低価格モデルや県域推奨型式の推進に取り組んでいます。

その3 JA経済事業の収支改善と活気ある地域社会づくり

- (1) 石油・ガス・でんきのホームエネルギーとしての提案・推進をすすめ、組合員・利用者の暮らしにとってより身近な事業形態を構築し、生活ライフラインの維持、活性化に取り組んでいます。
- (2) 暮らし支援事業は、各JAの地域性を考慮しつつ、組合員の多様化する生活スタイルや新たなニーズに対応した新しい取扱品目、サービスの企画・提案をすすめています。

II. 【中期事業計画における取り組みの特記事項】 令和7年9月末時点での総括

その1 担い手推進センターの取り組み

- (1) 生産振興提案・購買事業の利用拡大・系統集荷量の拡大を目的に、JAと連携し地域の担い手を訪問し、個別のニーズや課題の把握を行いました。
- (2) 挙げられた要望や課題は、事業所と本所3部門（生産振興・生産販売・生産購買）で共有、協議した回答や解決案を提供し、JA・担い手と一体となり課題解決に取り組んでいます。
- (3) 9月末現在で76件の担い手を訪問し、訪問回数累計は159回となりました。

その2 アグリプラットフォーム（農業生産管理に関わるDX化）の取り組み

- (1) 全体進捗
関係部署とともに開発進捗会議を行い、県本部方針やシステム別の開発概要、データ分析・可視化に役立つBIツールの活用等について協議しました。個別システムについては「JA全農長野中期3カ年DXビジョン」に基づき組成した各プロジェクト・委員会にて取り組みをすすめています。
- (2) 各システムの進捗状況

情報発信	圃場カルテ	青果物販売管理	土壌診断	米穀出荷管理	肥料農薬カタログ
全JAで稼働	5JAで稼働	1JAで稼働	全JAで稼働	7JAで試験稼働	全JAで稼働
組合員MYページや「あい作」との連携、閲覧記録確認・広告掲載機能に加え、取引先からの組合員向け情報の提供も開始しました。	りんご高密度栽培向けのシステム開発を行いました。今後は「あい作」栽培管理システムとの連携機能も具備し、正確なデータに基づいた営農指導を提供できるよう改良をすすめます。	関係機関を参集しプロジェクト拡大会議を開催しました。JA分荷・県域分荷の各システムは令和7年12月の稼働に向け開発をすすめます。	圃場カルテシステムとの連携開発や「あい作」栽培管理システムとの連携検討をすすめます。	さらなる利便性向上のため組合員MYページとのシングルサインオンや、AI・OCRとの連携検討をすすめます。	店舗用POPデータ格納機能の開発や「あい作」資材受注システムとの連携検討をすすめます。

Ⅲ. 各事業別 令和7年9月末進捗状況

【生産振興部】

実行具体策			7年度計画	進捗状況	達成度合いと今後のすめ方
1. 産地基盤維持に向けた生産振興の推進					
(1) マーケットニーズ、担い手ニーズに応じた3部連携による生産・販売支援	ミニニュー提案	担い手への種苗等の推進や栽培技術の提案			果菜類及び果樹の栽培技術提案や品質向上に向けた提案をすすめる。
(2) りんご高密度植栽培の普及拡大	520ha	現地指導実施			生産安定に向けた現地指導を実施した。引き続き、栽培講習会等を開催し、課題解決に向けた技術指導を実施する。
(3) JA、生産法人と連携した試験栽培や実証圃の設置による生産振興	実証圃設置5圃場	アスパラガス2圃場 なす 1圃場 さやうり1圃場 春玉ねぎ1圃場			簡易施設栽培、品種試験や新たな栽培技術の実証試験を行っている。実証結果を踏まえ、普及拡大に向けた提案を行う。
2. 気象変動に対応した生産安定化対策と災害対策の推進					
(1) りんご高密度植栽培のトレスリス強化対策推進と多目的ネットの普及拡大	現地検討普及推進	現地指導実施普及推進			災害対策としてトレスリスの現地実証を県下4ヶ所で行った。また、輸入トレスリスを県下2ヶ所設置しコスト低減効果の検証をすすめている。
(2) 生産安定に向けた野菜の施設化推進	導入5ヶ所	高温対策2ヶ所 さやうり施設化8ヶ所			果菜類のモデル圃場を設置し、高温対策を目的とした資材の実証試験を実施。また、さやうり簡易雨よけハウスの推進を実施。
(3) 専用機器を活用した排水対策の実施	実施10ヶ所	デモによる実演3ヶ所 排水対策機械貸出4ヶ所			平高畝成型機「ベッドマイスター」による排水対策技術の推進と貸出を開始。今後、利用推進を目的とした排水研修会を実施する。
3. 農業DXの普及推進					
(1) 圃場カルテの普及拡大	導入5JA	アスパラガス運用4JA りんご高密度植栽培運用1JA			圃場カルテシステム（アスパラガス）を4JAで運用。また、りんご高密度植栽培においても圃場カルテの開発及び運用を開始。
4. 県本部種苗供給体制の強化					
(1) 野菜種苗センターの優良苗供給拡大	130万本	112万本供給			良品質苗の安定生産を継続し、次期作に向けての推進を行う。
(2) りんごフェザー苗の生産供給拡大（生産振興部生産本数）	6万本	生育管理継続。			歩留まり向上のための生育管理を継続。

【生産販売部】

実行具体策			7年度計画	進捗状況	達成度合いと今後のすめ方
1. 生産者手取り最大化に向けた販売力の強化					
(1) 予約価格の適正化	取引の50%以上の条件を改善	改善達成率 野菜 79% きのこ 57% 果実 74%			交渉未完了案件の継続交渉 来期交渉に向けたコスト試算・資料準備
(2) 輸出拡大と加工・業務対応の強化	①輸出額22億円 ②新規2件	①輸出額9.1億円 ②新規3件			①本年の中秋節が10月のためモモの取扱量減少。輸出先国の需要動向調査と販路拡大。 ②コンビニとのコラボ商品開発（カットサラダ・惣菜）、漬物メーカーとの「全農長野」表示商品の開発
2. 効率的かつ安定的な輸送体制の確立					
(1) パレット輸送体制の確立	新規2JA	新規なし			りんご専用パレットは新規供給先への運用に向けて継続検討。レンタルパレットは輸送・運用のトータルコストを試算し利用をすすめる。
3. 系統集荷率の向上					
(1) 生産販売強化品目の設定と増産	①300万ケース ②670万本 ③1,400万本 ④8,400t ⑤9,700t	①72万ケース ②388万本 ③774万本 ④6,107t ⑤7,542t			①高温干ばつの影響で日焼け・小玉傾向による数量減、高温適性品種への誘導 ②暑さで生育前進、病虫害発生で口ス増 ③生産者数増と全戸巡回による栽培指導 ④特定実需者事業の活用による顧客確保 ⑤取引条件の改善交渉と生産振興
4. 広域営農技術員の設置					
(1) 広域営農技術員の設置（花き）	検討	検討			複数JAを担当する営農技術員の在り方を検討。
(2) 長野米集荷推進の実施と販売強化	68,000t (高温耐性200t)	57,926t (308t)			早生品種への対応として概算金決定時期の前倒し。 10月以降の追加概算金・精算金の継続検討と集荷推進。

5. 青果物流通のデジタル化

(1) 青果物販売管理システム稼働	7 J A	試験運用 3 J A	利用拡大に向けた J A 推進 分荷・出荷機能リリースおよび 8 年 度に向けた試験運用
-------------------	-------	---------------	--

【生産購買部】

実行具体策

7 年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 包材のコスト抑制・需要の結集

(1) 低コスト・新形状段ボールの開発・普及	50 万箱	3 万箱	ぶどう組箱輸送試験実施と導入推進。
------------------------	-------	------	-------------------

2. 青果物輸送における物流課題解決

(1) パレット規格に適合する包材の開発	実証・組織合意 (8 品目)	5 品目現地試験 実施	他品目の試験実施と組織合意をすすめる。
----------------------	-------------------	----------------	---------------------

3. 低コスト・省力資材の開発、普及

(1) 原料・成分見直しによる低コスト銘柄の開発	3 銘柄	2 銘柄	2 銘柄新規商品化。今後商品化予定の銘柄の準備をすすめる。
(2) 担い手直送規格農薬の普及拡大	6, 300 ha	6, 754 ha	水稻箱剤および除草剤の受注拡大で増加。
(3) 需要結集マルチの普及拡大	160 ha	344 ha	J A からの要望の強かった白黒水抜き、薄膜マルチを追加し受注拡大。次年度に向け規格集約をすすめるコスト低減をはかる。

4. 担い手への提案型推進

(1) わたしの肥料受注推進	5, 300 t	5, 303 t	受注・製造・物流の効率化をすすめる。
(2) 軽量肥料 Light シリーズの開発普及	2, 400 t	1, 110 t	適正施肥やコスト抑制のニーズに対応した銘柄の取り扱いが伸長。

5. みどりの食料システム戦略の取り組み

(1) 国内肥料資源を活用した原料・製品の拡大	800 t	266 t	堆肥等を活用した B B 肥料製品の取扱い拡大提案。
-------------------------	-------	-------	----------------------------

6. 農機コスト低減の取り組み

(1) 県域推奨型式設定による重点購買	累計 13 型式	型式選定中	12 月に第二回推奨委員会を開催予定。
---------------------	----------	-------	---------------------

(2) 共同購入コンバイン（低コストモデル）の推進	5 台	6 台	展示機を増台し推進強化をはかった。下期に向けても受注拡大をはかる。
---------------------------	-----	-----	-----------------------------------

7. 県域農機整備事業の体制強化

(1) 県域整備拠点による系統整備体制の強化	丸子 390 台 堀金 230 台	丸子 170 台 堀金 146 台	北信地区からの受入堅調。 コンバインの点検整備の台数増加。
------------------------	----------------------	----------------------	----------------------------------

【畜産酪農部】

実行具体策

7 年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 生産基盤の維持確保

(1) 肉牛（枝肉）の出荷頭数確保	6, 450 頭	2, 990 頭	J A・関連会社・販社と連携し、補完的生産事業による頭数維持をはかる。県本部生産基盤対策による県外販売や、輸出の拡大など手取り確保に向けた取り組みを強化する。
(2) 肉豚（枝肉）の出荷頭数確保	59, 000 頭	26, 058 頭	信州産肉豚確保に向け、行政と連携した衛生検査の強化による農場疾病対策および生産性向上対策の取り組み強化をはかる。
(3) 生乳の出荷量確保	80, 000 t	39, 030 t	酪農家戸数の減少、夏場の猛暑による乳量低下の影響あり。県本部生産基盤対策事業の活用による基盤維持をすすめる。

2. 信州産ブランドの強化

(1) 信州プレミアム牛肉の生産販売	2, 400 頭	1, 346 頭	ブランドの認知度向上のため、県内外での信州フェアの開催、協賛および輸出事業者との連携強化による和牛輸出拡大に取り組み有利販売をはかる。
(2) 信州プレミアム牛肉の輸出強化	230 頭	110 頭	県主催の海外レセプションへの参加、海外バイヤーとの意見交換や農場視察を強化することでブランドイメージの強化をはかる。
(3) 信州産生乳の消費拡大イベントおよび各 J A 祭への協賛	6 回実施	8 回実施	乳量が増える秋口や不要期となる冬場への消費拡大 P R の実施、理解醸成活動の取り組みにより牛乳消費拡大をはかる。

3. 県本部生産農場の機能発揮

(1) 素子豚の安定供給	23,000頭	10,461頭	SPF豚繁殖センターの生産体制の安定化、生産管理及び衛生対策強化による出荷頭数の確保および肥育事業の銘柄豚販売の有利販売に向けた協議をすすめる。
(2) 生乳の出荷量確保	2,100t	1,046t	搾乳牛の頭数確保および1頭あたり搾乳量の確保に向けた飼養管理の強化をはかる。

4. 新たな県産食肉流通体制（代替策）の構築

(1) 新たな流通体制【荷フリ】および県検討会議への報告、行政支援要請	移行計画 策定・合意	移行計画 策定中	7月、「松本食肉処理施設移転・新設計画の断念、並びに県産食肉流通の代替策の検討」を組織決定し事業方針を変更した。
-------------------------------------	---------------	-------------	--

5. 畜産酪農営農センターの機能整備

(1) 中信畜産酪農営農センターの最適な運営体制の協議と方向付け	協議	検討・協議	センター加入JAとの課題検討策の協議・検討をすすめる。
----------------------------------	----	-------	-----------------------------

【くらし支援部】

実行具体策

7年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 石油取扱数量の確保

(1) 系統結集数量を背景にした仕入強化	252,000kℓ	103,293kℓ	県下統一対策を実施し系統結集を強化するとともに、顧客の固定化のためENEOSアプリ・Enekey会員獲得に取り組んだ。下期は灯油需要期対策等を実施する。
----------------------	-----------	-----------	--

2. SS協同経営方式の拡充による体制強化

(1) JAらしいSSつくりによる顧客囲い込み	64,000kℓ	30,904kℓ	油外商品の店頭推進・販売を徹底。下期はSSごと独自イベントを随時実施し数量確保をすすめる。
(2) SS独自企画による収益確保			

3. SS協同経営販売数量の確保

(1) SS独自キャンペーンによる来店促進	64,000kℓ	30,904kℓ	A・コープ16店舗と26SSが連携した相互送客イベントを実施。下期は結果検証と2回目開催に向けた検討をすすめる。
(2) JA事業と連携した供給促進の展開			

4. ガス取扱数量の確保

(1) JA別マスタープラン実践による小売事業強化	14,500t	6,117t	全JAでマスタープラン検討会を開催し、営業・保安等の行動計画達成に向け協議。目標達成に向けて進捗管理を徹底する。
(2) 顧客接点活動の実践・強化による顧客防衛			

5. ホームエネルギー事業の拡大

(1) JAでんき取扱いの拡大	低圧供給 累計5,000戸	低圧供給 累計2,678戸	研修会を3回開催し、推進方策や優良事例を共有した。下期は獲得インセンティブを活用し推進を強化する。
-----------------	------------------	------------------	---

6. 自動車取扱台数の確保

(1) 営農車の台数確保と電動車の取扱拡大	2,500台	909台	JAハイゼットを中心とした営農車のPR実施。下期は県下統一キャンペーンを実施し台数拡大をはかる。
-----------------------	--------	------	--

7. eコマース事業の拡大

(1) JATAタウン出店者・出品数の増加による取扱高拡大	280百万円	127百万円	JAおよび既存出店者との情報交換により新規出店者9件獲得。取扱計画達成に向け出店者へのフォロー・出品促進をすすめる。
-------------------------------	--------	--------	--

8. 新規事業の構築と展開

(1) 高齢者生活・家事支援事業等の構築と展開	7事業（商品）	3事業（商品）	JAへの個別提案および職員向け商品研修会開催により、下期は新たに2事業（商品）取組開始予定。未着手事業については関係取引先との協議をすすめる。
-------------------------	---------	---------	---

9. セレモニー施行件数の拡大

(1) ニーズに対応した葬儀サービス強化	共同運営葬儀 4,600件	共同運営葬儀 1,960件	死亡者数の減により葬儀施行件数は前年比94%で推移。件数確保に向けたPR強化をすすめる。
----------------------	------------------	------------------	--

(くらし支援課)

YouTube番組「紀香とゆる飲み」で 「和牛焼肉 信州そだち」を紹介

J A全農が運営する「J Aタウン」では俳優の藤原紀香さんがMCを務めるYouTube番組「紀香とゆる飲み」に協賛しています。同番組ではお酒を飲みながらJ Aタウンで購入できる全国の食材をお勧めしており、11月の配信では5月にオープンした「和牛焼肉 信州そだち」から長野県のおすすめ食材を紹介することになりました。

藤原さんは9月17日(水)、撮影のため長野市を訪問。撮影前にJ A長野県ビルでJ A全農長野の長谷川孝治県本部長にお会いになり、長谷川県本部長は藤原さんが出演された作品の感想を伝えるなど、和やかに歓談しました。また、撮影に出発する藤原さんを見送ろうと大勢の職員が拍手で見送り、このサプライズに藤原さんは大変お喜びになり、急遽写真撮影を行いました(=表紙下)。

「信州そだち」では料理長お勧めの「五つ星ランチ」をお召し上がりいただいた後、撮影が始まりました。藤原さん、畜産酪農部、くらし支援部の4名は、地酒を味わいながら信州和牛やきのこ、ぶどう三姉妹[®]、豊水、サンつがるなどの農畜産物をPRしました。

兵庫県出身の藤原さんは和牛のルーツを熟知されており「和牛には個性がある」と話し、信州和牛の味わいに満足されていました。また、くだものは「ネクタリンが好物」と前のめりに熱弁されていました。最近では自ら果物の発酵ドリンクを取り入れるなど、健康志向が高い印象を受け、食材の話題に盛り上がりつつ撮影を終えました。「信州そだち」の番組配信は11月16日(日)18時からの予定です。

くらし支援課は今後もJ Aタウンおよび「信州そだち」とおして、信州産農畜産物の利用促進に努めてまいります。皆様のご利用をお待ちしております。



長谷川県本部長と藤原さん



YouTubeに出演した職員と信州そだちの桑原料理長



撮影の様子

J Aタウン



信州そだち

YouTube
「紀香とゆる飲み」

畜産酪農課

「第16回全日本ホルスタイン共進会 長野県予選会」開催

第16回全日本ホルスタイン共進会長野県協賛会（事務局／ＪＡ全農長野畜産酪農課）は9月25日(木)、小諸市の小諸家畜市場で「第16回全日本ホルスタイン共進会長野県予選会」を開催しました。この予選会は、10月25日(土)～26日(日)に北海道で開催される第16回全日本ホルスタイン共進会の長野県代表牛の選抜とともに、県内ホルスタイン種の改良と酪農家の交流をととした酪農業発展が目的です。

全日本ホルスタイン共進会は、「乳牛の美人コンテスト」や「乳牛のオリンピック」とも称され、概ね5年毎に開催されますが、前回大会はコロナ禍で中止となったため10年振りの開催となります。共進会当日は、各都道府県から選抜された400頭以上の乳牛が集まり、酪農家の威信をかけた戦いが繰り広げられます。

長野県では、出品申込み総数143頭の中から一次審査で53頭を選抜し、その中から最終的に11頭が予選会に出場しました。事前審査を通過してきた出品牛の審査は難航しましたが、松崎良一審査委員長（長野県畜産試験場長）のもと、出品牛の体型バランス等の審査を行い、6頭の代表牛が決定しました。

代表牛一覧（敬称略）

ＪＡ名	出品者	出品区分	名 号
佐久浅間	小林 政幸	42～48月未満	スプレンドール ハリエット ローリエ
佐久浅間	小林 政幸	4～5歳未満	スプレンドール クラツシヤブル アニサ
佐久浅間	杉山 三津枝	10～12月未満	スギ FB シヤロン
長野八ヶ岳	新海 益二郎	32～36月未満	ラツキーマーシユ ダーハム ユズボン
南信酪農	(株)三村牧場	36～48月未満	ミムラフアーム ロツクヒル パローズ
南信酪農	(株)三村牧場	6歳以上	ミムラフアーム ナオ コントロール



予選会の様子

長野県代表牛に選抜された6頭は、約一ヶ月の最終調整を行ったのち、10/25、26の共進会へ出発します。

全農長野畜産酪農課は、長野県代表牛の共進会での活躍を祈念するとともに、今後も酪農家の相互交流を深め、乳牛の改良・生産の一助となるよう努めてまいります。



代表牛と出品者、ＪＡ、審査員など関係者

農業資材課

JA資材店舗の売場コンテスト全国大会でJAファームみゆき店が全国の頂点に！ さらに各賞受賞店舗数は長野県が最多！

全国43府県、135JA、541店舗が参加したJA資材店舗の売り場コンテスト全国大会「JA資材店舗CS甲子園2025」で、JAファームみゆき店（JAながの）が大型陳列部門で優勝（＝表紙右上）するなど、長野県で9店舗が各賞を受賞し、受賞店舗数で最多となりました。

「JA資材店舗CS甲子園2025」は、前身の「JA-POP甲子園」から通算し25回目の開催です。これまで多くのJAおよび店舗がディスプレイ技術を競ってきた伝統を踏まえ、取り組みを深化、飛躍するために4つの目的が設定されています。

①JAならではの売場づくり・店づくりによる組合員満足度向上、②地域の競合店に先んじた早期陳列による実績拡大、③JAオリジナル品の陳列強化による競合店との差別化、④大会を通じたJAグループ内のネットワークづくり。

また、CS甲子園のCSには3つの意味が込められています。

①農家組合員の満足度の高い店づくり（＝Customer Satisfaction）、②JAらしさを意識した店舗のコーディネート（＝Coordinate the Store）、③JA重点品目の早期陳列・販売の徹底（＝Challenging Sales）。

審査基準は、商品陳列やPOP、JAらしさなど陳列方法に対する評価のほか、接客、クレンリネスなどの店づくり評価、陳列商品の販売実績評価やJAの面展開な取り組み評価が審査項目となります。POPや陳列方法などの売場づくりアドバイザーである外部講師やJA全農職員が、売場の写真が添付された報告シートに基づき審査します。審査の結果、全国で94店舗が各賞を受賞し、長野県では「大型陳列部門」でJAファームみゆき店が県内初となる優勝、「簡易陳列部門」でJAみなみ信州伊賀良資材センターが準優勝、昨年新設された管内資材店舗全体で取り組みを面展開しているJAを評価する「JA賞」をJAみなみ信州が昨年に引き続き受賞しました。

この取り組みをとおして、農家組合員からは「商品説明がわかりやすい」「競合店では聞けない情報がPOPからも店舗スタッフからも得られる」「地域ならではのPOPで地元への想いが伝わり親しみをを感じる」などのコメントをいただいています。

長野県JAファームはボランティアチェーン活動を続けており、その統一活動の中で、各種研修会の開催やJAファーム店15店舗による独自の売場コンテストも行っています。多くの店舗が受賞されたことは、これまでの取り組みを継続してきた成果でもあり、引き続き、農家組合員に喜ばれる店づくりに取り組んでまいります。



10月10日の表彰式で表彰されるJAファームみゆきの湯本剛さん

<長野県内受賞JA店舗>

賞	部門	JA名	店舗名
優勝	大型陳列部門	JAながの	JAファームみゆき
準優勝	簡易陳列部門	JAみなみ信州	伊賀良資材センター
ラウンドアップ賞	簡易陳列部門	JA上伊那	JAファームいな竜西店
		JA信州諏訪	JAファームふじみ
		JA松本ハイランド	JAファーム今井
		JAあづみ	JAファームみどりの店
関連陳列賞	—	JAアグリーン長野	JAファーム篠ノ井店
		JAみなみ信州	松川資材センター
		JAながの	JAファームながの中部店
JA賞	—	JAみなみ信州	—



各賞を受賞した店舗代表者

総務広報課

松本山雅FCホームゲームで「JA全農長野デー」開催

JA全農長野は9月28日(日)、J3松本山雅FCのホームゲームでスポンサーデー「JA全農長野デー」を開催しました。県産農畜産物のPRブースを出展し、サッカークリニックを行いました。

ピッチで全農長野運営委員会の神農佳人会長が主催者代表挨拶をすると、サポーターから大きな拍手が湧きました(=表紙左上)。

イベント会場のガンズくん広場では、「全農長野きのこ汁決戦!」と題し、小澤修一社長お気に入りの「きのこ汁」、田中想来選手レコメンドの「きのこと白菜のシチュー」、樋口大輝選手が推す「きのことレタスのコンソメスープ」を500食ずつ用意しました。開始時間前から楽しみに待っている方々の行列

のおかげもあり、開始30分程で3種類すべてを振舞うことができました。食べ終わった後には「おいしかった」と声を掛けていただき大変励みになりました。また、信州セキュアフーズ(株)協力の下「信州ポーク串」を500本限定で販売し、第1ゲートでは南水とりんご三兄弟®コンポートの試食を行うなど、多くの方々に信州の農作物を楽しんでいただきました。

また、NBS長野放送と共催した小学生対象のサッカークリニックでは、元日本代表の巻誠一郎さんをゲストに迎え、親身に指導していただきました。

全農長野は、松本山雅FCのスポンサー活動をととして多くの皆様に産地理解を深め、全農長野をはじめJA長野県に興味を持っていただけるよう取り組んでまいります。



ピッチウオークで県産農畜産物をPRする職員

東京販売事務所

JAながの産リンゴ「秋映」トップセールスを開催



(左から) JA全農長野・安武裕高所長、JAながの小林俊一営農部長、東京青果(株)・川田光太社長、JAながの・宮澤清志組合長、JAながの小池宏明常務



競売に掛けられる上位入賞の秋映

JA全農長野東京販売事務所は10月4日(土)、東京青果市場・大田市場で東京青果(株)協力のもと、JAながの「秋映」トップセールスを開催しました。

会場となった東京青果(株)のイベントコーナーには、10月2日(休)に実施されたJAながの「秋映」品評会で上位入賞した10点が飾られ、市場関係者の目を引きました。

JAながのの宮澤清志組合長が「いよいよ中生種の秋映が始まりました。先月中旬からの雨で朝晩の寒暖差が大きくなり立派な秋映に育っております。管内は5市5町5村、標高300メートルから1,000メートルを超える範囲にあり様々な

面でリレー販売が可能です。JAながのから良い品物を送りますので、市場の皆様にはぜひ消費者の皆様にお届けいただければ幸いです」と挨拶しました。

挨拶後には宮澤組合長と小池常務が市場関係者の皆様に秋映を手渡し、用意した80セットは瞬く間に終了しました。また、リンゴの競売では、会場に展示されていた品評会上位入賞した秋映10点が競売にかけられ、注目度が高い中で活発な取引が行われました。

JA全農長野東京販売事務所は、今後も関係JA・事業所と連携して県産農産物のPRを進めてまいります。

(大阪販売事務所)

近畿大学で花イベント

京阪神地区信州花き販売推進協議会は10月1日(水)、近畿大学東大阪キャンパス（大阪府東大阪市）で、学生を対象に生け花体験イベントを開きました。長野県産のディスバッドマムとグラジオラスを使った草月流の「基本立真型・盛花」の制作レッスンと、花の意識調査を行いました。



草月流の生け花に挑戦する学生



キャンパスに飾られた学生の作品

協議会は関西の花き取引市場7社とJA全農長野で構成。同大学ではこれまでブーケレッスン体験イベントの実施はありましたが生け花は初めてで、39名が参加しました。

レッスンの前には同協議会の畑崎直樹会長が種苗会社、生産者、JA、市場、花き小売専門店の仕事について、同大学華道部の学生が長野県の花と使用する花材紹介を行ったほか、全農長野インスタグラムのフラワーフォトコンテスト「パシャフラワー」への投稿を呼び掛けました。

レッスンを受けた学生は「普段花に触れる機会がなく、貴重な体験になった」と話し、講師を務めた学生は「ぜひ今後も同様のイベントを実施していきたい」と手応えを感じていました。

全農長野ではこのような企画をとおして様々な花の飾り方を知ってもらうことにより花の購入につながる事業を実施してまいります。

(販売流通企画課)

日本火山学会交流会にて大人の食育展示を実施

JA全農長野販売流通企画課では、9月29日(月)～10月4日(土)に松本市などで開催された日本火山学会の交流会で、大人向けの食育PRに取り組みました。

「火山や気象に関する研究者が全国各地から集う機会にぜひ長野県産農産物のおいしさを伝えられる食材を使用したい」という同学会事務局からの要請を受け、共同で農産物を用意しました。

交流会は信州大学松本キャンパスの生協食堂で行われ、地元JA松本ハイランドより出荷最盛期を迎えた秋映・シナノスイート・南水・シャインマスカット・クイーンルージュ®、さらに信州を代表するレタス3種とプルーン、えのきたけ、ぶなしめじ、シナノゴールドジュースを仕入れ、フルーツ盛りやサラダ、きのこ汁として提供されました。

出席者は展示した農産物を手に取り、秋映には「しっかり色づいたきれいなりんごですね」、レタスには「さすが長野県、すごいボリューム感でおいしそう」、信州力パッケージのきのこには「うちの近所のスーパーではいつもこれを売っていますよ」などと話し、生産コスト上昇に理解を求めるPOPには興味深げに足を止め、闊達な意見交換とともに信州産農産物に親しんでいただくことができました。

全農長野販売流通企画課は、品目を横断した総合宣伝活動をとおして長野県産農産物の魅力を継続的に発信し、本県産への応援・支援の意識高揚や購入機会および認知度向上につなげてまいります。



会場にディスプレイされた長野県産農産物



信州力はここでも人気

JA全農長野の事業現況

令和7年度9月末総供給販売高実績表 (単位:百万円、%)

品目	区分	当年度実績	計画比	前年比
生産振興課		0	—	2
野菜種苗センター		130	114	119
生産振興部計		130	114	115
米 穀		8,802	77	102
果実花き		24,457	91	94
野菜きのこ		45,868	95	95
営 業		8,708	94	99
生産販売部計		87,835	92	96
農業資材		6,134	98	124
肥料農薬		3,788	106	80
農業機械		3,868	109	108
施設住宅		2,310	161	107
生産購買部計		16,101	109	104
畜産酪農		16,228	101	99
三岳牧場		138	84	90
S P F繁殖センター		138	86	109
八ヶ岳牧場		156	98	98
畜産酪農部計		16,661	101	99
燃料・ホームエネルギー		11,671	109	98
S S 協同経営		3,856	116	100
くらし支援		3,596	97	91
くらし支援部計		19,124	108	97
長野県本部計		139,850	96	97

(内部販売高含む)

11月のラジオ番組表

放送日時	放送局	番組名	出演
11/26(水) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんのずくだせえぶりでい内 「暮らしの応援団」	果実花き課

グリーンレーダー
X(旧ツイッター)はこちら



グリーンレーダー
WEB版はこちら



また、旬の梨「南水」やりんご三兄弟コンポートの試食、信州ポーク串の500本限定特別販売、対戦チームのサポーターへの農産物プレゼントなども行いました。

注目の栃木SCとの試合は、ブレイオフ進出に向けて重要な戦いだったため、試合前からサンプロアルウィンは大いに盛り上がりつつありますが、惜しくも引き分けました。イベントスタッフとして新入会職員を中心に対応しました。農畜産物の提供によるPRを通じて、サポーターや観客の皆さんと直接触れ合っ

(丁)

今月のおすすめレシピ

えのきたけと 鶏ひき肉のつくね



【材料(2人分)】

- ・えのきたけ… 100g
- ・鶏ひき肉… 200g
- ・片栗粉… 大さじ1
- ・おろし生姜… 1かけ
- ・塩… 小さじ1/3
- ・コショウ… 少々
- ・ごま油… 適量
- ・卵黄… 1個
- ・炒りごま… 適量

A

- ・醤油… 大さじ2
- ・みりん… 大さじ2
- ・酒… 大さじ2
- ・砂糖… 大さじ1

【作り方】

- ① えのきたけは石づきを切り、みじん切りにする。
- ② 鶏ひき肉、①、片栗粉、生姜、塩、コショウをボウルに入れ、粘り気が出るまで練り合わせる。一口大に丸める。(丸める際に手に油をつけると丸めやすい)
- ③ 中火で熱したフライパンにごま油をひき、②の表面に焼き色がつくまで焼く。出てきた油はキッチンペーパーでとる。
- ④ ③にAを入れ、煮絡ませる。
- ⑤ 器に④を盛ったら、炒りごまを振り、卵黄を添える。



ポイント

つくねを丸める際は、手に油を塗ることで肉だねが手に引っ付かず綺麗に丸めることができます。

編集後記

朝晩が特に寒く感じられ、いよいよ秋も深まってきました。今年の夏の暑さが懐かしく感じられます。県内の農産物は実りの秋を迎えています。すが、そうした中で9月28日にJ3松本山雅ホームゲーム「信州の秋実りの秋山雅の秋おいしさのサポーターJA全農長野デー」を開催しました。

JA全農長野デーは、長野県産農畜産物およびJA全農長野の総合PRを目的として、平成22年から開催しており、今年で15回目を迎えました。今回のイベント内容として、(株)松本山雅の小澤社長と選手監督の「全農長野の汁決戦！」では、「シンプルなきのこ汁」「きのことレタスのコンソメスープ」「きのこと白菜のシチュー」の3種類を各500食振る舞いました。県産きのこを豊富に使ったきのこ汁は非常に好評で、3種類とも短時間で提供終了となりました。

また、旬の梨「南水」やりんご三兄弟コンポートの試食、信州ポーク串の500本限定特別販売、対戦チームのサポーターへの農産物プレゼントなども行いました。

注目の栃木SCとの試合は、ブレイオフ進出に向けて重要な戦いだったため、試合前からサンプロアルウィンは大いに盛り上がりつつありますが、惜しくも引き分けました。イベントスタッフとして新入会職員を中心に対応しました。農畜産物の提供によるPRを通じて、サポーターや観客の皆さんと直接触れ合っ

秋には秋の

JA全農長野です。



光と風と水のハーモニー

JA全農長野



光と風と水のハーモニー

JA全農長野



JA 全農長野ホームページ…………… <https://www.nn.zennoh.or.jp>
インターネットで産地直送「JA タウン」…………… <https://www.ja-town.com>

